

音鑑・夏の勉強会 2017 「よりよい授業を求めて」

8月18日・8月19日～20日
教員免許状更新講習（選択領域6＋12時間）認定

3日間の日程で松本記念音楽迎賓館での開催です。

1日目の午前中は、普段なかなか聴くことのできないリコーダーとチェンバロの演奏を、曲目の解説付きで堪能し、その後リコーダーの基本的な奏法について実際に体験しながら学びました。演奏（ミニコンサート）では、本村先生からそれぞれの曲の解説と演奏に使われていたリコーダーの説明を聞き、

栗形先生から実は通奏低音しか書かれていない楽譜を見ながら即興でチェンバロを演奏されていたことなどを教えていただきました。

午後は、グループに分かれてアンサンブル演習と発表会を行いました。講師の先生方のアドバイスでガラッと曲想が変わるなど、練習を楽しみながらもリコーダーの表現について学びました。

1日目 (8月18日)

研修内容：●演奏（リコーダー、チェンバロ）／リコーダーの基本的な奏法の解説と演習
●グループによるアンサンブル演習／グループ発表

講師：藤沢 章彦（東京女子体育大学講師、当財団理事）

本村 睦幸（リコーダー奏者・指導者）

栗形亜樹子（チェンバロ奏者・東京藝術大学音楽学部講師）



1本管のリコーダーです。▶

◀ テナーリコーダーのように見えますが、実はD管のリコーダー（ヴォイスフルート）だそうです。



高い音になるほど息を強く吹き込まないとその音は出ないので、音程に気を付けることで、自然と上行形はクレッシェンドに、下行形はデクレッシェンドになるという基本的な奏法のお話を聞きました。▼





▲4人1グループで練習。強弱は、同じ部分を吹く人数を減らすことでもつけられるとアドバイスがありました。▲



▼アルト二重奏、ソプラノとアルトの二重奏 約30曲のなかから選曲もグループで行い発表会をしました。



【アンケートより】

- ・口と右手親指、左手の中指でまずはバランスをとることなど、基本から教えていただいたことは早速授業に取り入れたいと思います。
- ・多く指孔を押さえている音のほうが複雑な音色になることが発見でした。リコーダーの奥深さを知りました。
- ・アンサンプルで演奏するときは、他の人の音をしっかり聴くとより良い音楽になるということ子どもたちにも指導していきたいです。

2日目の午前中は「これからの鑑賞領域の指導と評価」についての講義を聞き、午後から3日目にかけては、グループ毎に研修をしました。

グループ研修では、さまざまな音源や映像を比較しながら鑑賞し、「共通事項」を窓口にした楽曲分

析の方法、授業のねらいに適した教材を選ぶ方法、指導の流れの考え方や評価の設定の方法などを講師からアドバイスをもらいながら、グループの先生方と、よりよい授業を求めて考えを深めていきました。

2日目・3日目 (8月19日・20日)

研修内容：●講義「これからの鑑賞領域の指導と評価」
●グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際

講師：藤沢 章彦 (東京女子体育大学講師、当財団理事)

萬 司 (拓殖大学北海道短期大学教授) / 高道有美子 (東京都八王子市立打越中学校主任教諭)

梅宮 真里 (福島大学附属小学校教諭) / 熊倉佐和子 (東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭)

中心教材：小学校Aグループ「トルコ行進曲」 / 小学校Bグループ「パール・ギユント」

中学校グループ「交響曲第5番」



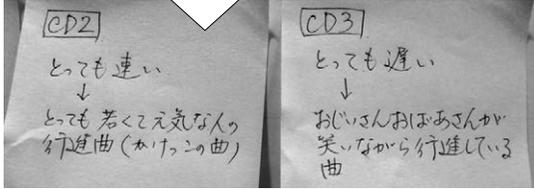
▲2日目の冒頭は全員で藤沢先生からのお話 (左) と、萬先生からの講義 (右) を受けました。▲



研修では、講師の先生にアドバイスをもらいます。▶

◀【共通事項】を窓口に楽曲を分析しました。

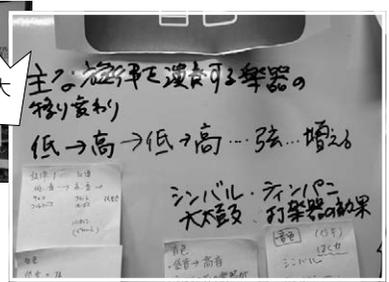
拡大



▲分析してみると、同じ曲でも選ぶ音源によって特徴が違っていました。



拡大



▲【共通事項】を窓口に分析した内容を整理します。

▲グループに分かれて指導の流れを検討します。



▲勉強会の終わりに向け、題材（学習）の内容を具体的に形にします。



▲休憩時間にも講師に対して熱心な質問を。



◀各グループから研修した内容の報告がありました。



▲最後に、グループごとに振り返りをし、研修のまとめをします。

【アンケートより】

- ・1つの曲について、いろいろな考えをもった先生方と話し合っ、授業計画を考えることが、とても楽しかったです。
- ・授業づくりを指導事項・評価規準をもとにしていくという基本的なおさえを忘れがちであったので、改めて視点をもたせて頂きました。
- ・「子どもたちに発見させる喜びを」というお話もありましたが、そういう気付かせる指導をしていかなくてはならないと思いました。